

# 広報 おぎかわ

2021.11.15 第194号  
発行者 荻川コミ協  
発行人 横山道夫  
電話 (24) 5776

荻川の人口	世帯数	7,061戸
	人口	18,346人 (前年同日比-63人)
	男性	8,898人
	女性	9,448人 (2021年9月末日現在)

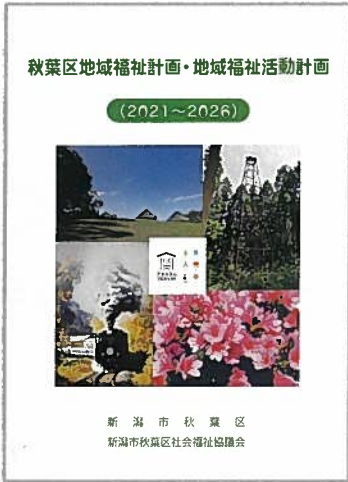


## 「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」が策定されました

秋葉区及び秋葉区社会福祉協議会では、「人がつながり、ともに支えあう やさしいまち」を基本理念とする「秋葉区地域福祉計画・地域福祉活動計画」(2021~2026)を策定しました。計画は、コミ協単位に福祉懇談会を開催し、住民の意見を聞いて策定されたものです。

荻川地区では、荻川地区協議会、民生委員児童委員協議会、老人クラブ、荻川地区3校(二中、結小、荻川小)、荻川コミ協で構成する「荻川地域福祉推進連絡会議」が住民の皆さんと協力しながら、本計画の基本目標である

- 明るく元気な地域づくり
  - 安全で安心な地域づくり
  - 健康で豊かな地域づくり
  - 相談しやすい体制づくり
- に取り組んでまいります。(荻川地区社協)



## 「おぎかわあったかネット」荻川地区協議会と推進方法を相談

9月25日、今年度の荻川地区社協の事業について、自治会長、町内会長の皆様と相談する会議を開催しました。

会議では、見守り事業「おぎかわあったかネット」の拡充について相談したほか、高齢者の急病などの時に役立つ「緊急情報キット」や地域のお茶の間「荻川やすらぎの間」などの取組について自治会長・町内会長の皆様からご意見をいただきました。いただいたご意見は、今後の地区社協の活動に活かしてまいります。(荻川地区社協)



## 日本舞踊を堪能 荻川やすらぎの間

9月29日、「荻川やすらぎの間」では、荻川地区社協スタッフが日本舞踊や佐渡おけさなどの踊りを披露し、参加者は心ゆくまで堪能しました。

「荻川やすらぎの間」は、毎週水曜日に荻川コミセンで開催しており、どなたでも参加できます。お問い合わせは荻川コミセン(電話24)5776)まで (荻川地区社協)



## 市道拡幅整備状況報告

市道1-340号線拡幅整備実現協議会 代表 田中雄一

荻川地域の交通事情において、国道403号線の交差点からJR荻川駅までの市道1-340号線の小学校運動場の南面までは歩道もなく狭く、朝の出発時間帯には渋滞が激しくなり、雪の日は通常の2倍近く時間がかかり混雑します。

そこで、拡幅及び歩道整備について賛同者を募り、平成31年(令和元年)4月に要望書を、新潟市長に提出、了解を得て秋葉区長に指示される運びとなりました。その後、世話人7名を始め、地権者及び荻小校区内の町内会長と、あおば町内会館にて秋葉区長・建設課と意見を交換、10月には交通状況の調査が行われました。

そこで、「拡幅整備実現協議会」を発足。最も利便性を得る「あおば通町内会」に事務局を置き、代表として田中が担当することになり、改めて「あおば通町内会」としての「要望主旨書」を秋葉区建設課長に提出。結果、道路改良のため測量調査され、拡幅案が3例示され、協議会員と建設課担当者との協議、小学校前の幅員構成と同じものに決定、予算計上との運びとなりました。

だが、突然発生した新型コロナウイルスの感染で予算がカットされるのではと心配しましたが、それとは別件ということでした。新3年度期では、人事異動があり担当課長が異動、一抹の不安があり、再三建設課に進捗状況を確認、3年6月係長と対談、拡張案は希望通りとし、実質工事は今のところ未定だが、秋の農閑期に地権者と話し合いをする約束。

その後、9月の農作業が終了時に合わせ、具体的な地籍の測量と地権者・耕作者との買収交渉に入るとの連絡をいただき、「安心」ここに、実現への期待をこめて荻川地域の皆様方に進捗状況を報告いたします。



## R403フラワーロードのコスモス

今年も艶やかに咲きました。(写真:荻川の人口下)

2021年秋のカマキリの卵  
今年のカマキリの卵は市之瀬横山さんのお庭で見つけました。高さは1メートル80センチ近くの高さに有りました。今年の冬も大雪でしょうか???



## 自転車盗難防止キャンペーン 荻川駅西口

10月12日(火) 早朝荻川駅西口駐輪場で盗難防止のキャンペーンを実施しました。

令和3年1月から現在迄、秋葉区内の駐輪場での盗難自転車約4割が当駅西口におか



かっているカギのかかっていない自転車です。

※カギは必ずかけましょう。

※放置自転車が10台以上あります。

他の利用者の迷惑になっていきます。心当たりの方は速やかに撤去してください。



## 消防団と地域自主防災力

SK

地元の先輩に「消防団に入りませんか?」と誘われて、父親が消防団のOBということもあり、当たり前のように入団しました。

新潟市南区に住んでいたため、入団は南方面隊でしたが、結婚を機に秋葉区に移住した時に、地域の方から消防団移籍の要請を頂いたことと、こちらの地域に早く馴染みたいという思いが一致したため、秋葉方面隊への移籍を決めました。

活動内容の二部を紹介します。

平時時は、火災現場を想定した消火訓練及び備品の点検。花火大会やお祭り等の警備。地域防災訓練での指導や積載車による防火広報を行います。非常時は、火災発生時に現場に駆け付けての初期消火。河川水位上昇時の水防活動や地震等の災害活動をを行います。

活動に必要な知識と技術は、先輩方や消防署員から、その都度、指導して頂くと共に、経験を積むことで徐々に覚えてきました。まだまだ勉強中です。(生勉強です。)

異常気象に伴う自然災害の激甚化に対し、地域防災の中核であり、強化しなければならぬ消防団は、平時時の活動すらギリギリの人員で活動しているのが現実です。団員のなり手不足が続いており、人員が大きく不足しています。

大規模災害発生時を思えば増員が必須です。

一緒に地域自主防災力を高めませんか?

## 中野5丁目美化レディー

中野5丁目

中野5丁目ではコミセン脇水路のウオエイ付近と表側のコミセンからすずらん様の間の、雑草除去と草花の管理を冬場を除き行い、通行中の皆様の目の保養に努めています。

管理は中野5丁目の町内役員と有志ボランティアグループの『中野5丁目美化レディー』で行われており、スマホの『LINE』でグループを作り連絡のやり取りをして、このグループを活用し町内活動全般に役立てていきたいと思っています。

## 異年齢で関わることを通して

新潟市立結幼稚園

先日、県立鳥屋野湯公園へ遠足に行きました。ドングリや小枝を拾ったり、広い公園でお弁当を食べたりする中で、子どもたちの笑顔が公園いっぱいに広がりました。秋の自然に触れる経験とともに、私たちは異年齢の友達と関わり合う経験も大切にしたいです。

当園では日頃から異年齢で自然体に関わり合うことを大切にしています。クラスの友達だけでなく、幼稚園のみんながお互いに大切な仲間ということを感じ合える教育を行っています。それぞれの成長の中で主体的にクラス以外のお友達とも関わり、年上の幼児が年下の幼児を思いやったり、年下の幼児が年上の幼児に安心して自分の気持ちを表現したりする関係性ができています。



今回の遠足では、年少児から年長児までの異年齢で構成される縦割りグループでお弁当を一緒に食べました。年少児がおやつのお袋を開けられないときに、先生を頼るのではなく、年長児にお願いする姿がありました。年長児は快く「貸してごらん。」とその袋を受け取るとすばやく開け、年少児のお友達に渡していました。開けてもらった年少児のうれしそうな表情と誇らしそうな年長児の表情が印象的でした。異年齢で関わる中で、人と関わる力の基礎を育むことができると思っています。

これからもお互いを大切な存在を感じ合うことを大切にしながら、全園児を全職員で支えていきます。



## 市之瀬幼稚園の運動会

市之瀬幼稚園長 太田 伸男

10月2日の土曜日、荻川コミュニティセンターの体育館で運動会を実施しました。

運動会では、これまで異年齢で取り組んできた遊びを幾つかの競技に生かしました。その一つが「段ボール積み」です。子どもたちは、最初、色々な大きさの段ボールを高く積み上げて遊んでいました。その後、「二チームに分かれて競争しよう!」ということになりました。いざやってみると、なかなかゲームが終わりません。しばらくすると、こどもたちの中から、「段ボールの数と大きさを同じにして、早く積み終わった方が勝ちにしよう」というルールが出されました。チームに分かれると、「段ボールを重ねて押して運ぼう」という作戦が次々と出てきました。

当日は、勝敗が付きましたが、どの子ども自分たちで考えたルールや作戦で、全力で勝負したことの満足感を味わっていました。



## 市之瀬幼稚園三園交流会

10月11日(月)小須戸幼稚園、小合東幼稚園を迎えて三園の交流会が行われました。

他園のお友達と触れ合ったり、体を動かしたりしながら一緒に遊ぶ楽しさを感じ、秋の草花・木の実・虫などを探したり、見つけたりしながら遊ぶ予定でしたが、残念な事に当日の天気は雨模様、園内でかけっこやお遊戯で楽しみました。



## 荻川のむかし

荻川小学校二年生の生活科授業として「荻川のむかし」を荻川コミ協会の横山さんから昔の荻川地域の五百年前の状況と福島地区の「パレロンの化け物」・覚路津地区の「生き石」・市之瀬地区の「カッパ神様」のお話をして頂きました。資料として「荻川散策ガイド」を使用しました。



# 「私は今、ラグビーに夢中です。」

井田 美海

今までいくつかのスポーツをしてきましたが、ラグビーは私の特別なものになりました。以前スポーツをしていて自信を無くしていた時、父から「なんのためにスポーツをしているのか」と聞かれました。そこで「楽しむためだ!!」と悩んでいた気持ちが晴れてラグビーにうちこむようになりまし。ラグビーは相手とぶつかり転んだりするハードなスポーツですが、そこをチームではげましながらボールをつないでトライをとりに行くのがとても楽しいです。

新津ラグビースクールでは「試合に勝つこと」よりも大切なことをコーチから教えていただきました。それは「チーム全員でラグビーを楽しむこと」です。苦しい時こそ仲間と声をかけ合って、みんなとのりこえられた時や、練習してできるようになった時、強い気持ちでタックルして相手をとめることができた時は、ラグビーがもっとも好きになり、もっと上手くなりたいと思います。

東京二〇二〇オリンピックで女子七人制ラグビーに出場された原わか花選手は私のあこがれです。

世界の選手を相手に強い気持ちで積極的に前に進んでいく姿がとて素晴らしいと思います。わか花選手のように、強い気持ちと明るい笑顔が心をくわけて、これからも感謝を忘れず、仲間とラグビーを楽しみ、がんばっていききたいです。



↑井田さん

# 「風鈴のひび」

S.I

私は南魚沼市で単身赴任生活を送っています。平日は南魚沼市、週末は萩川という生活は3年目に突入しました。夏も冬も2回経験したことになります。

萩川で生活する皆さんは南魚沼市といえど、どんなことをイメージするだろうか? 「南魚沼産コシヒカリ」「八海山や鶴齢などの日本酒」「スキー場」「豪雪地帯」など。

確かに雪には驚いた。自分の背丈以上の雪壁に囲まれた生活は萩川では経験できない。しかし、南魚沼市の夏は予想以上に暑かった。山に囲まれた盆地ゆえ、夏の日中の暑さは強烈だ。

夏が過ぎ、秋を迎え、冬を待つ今日この頃、以前知人から聞いたテレビの番組の話を思い出した。それは「風鈴の音を聞くと本当に涼しくなるか」を実証実験する番組だった。



実験は温度と湿度が一定の部屋で風鈴の有無によって体感温度に変化が生じるかという点と、風鈴があつた場合は3度ほど体感温度が下がったと記憶している。なお、サーモグラフィの観察でも顔や腕の温度が風鈴の音とともに低下しました。風鈴の音を聞くことにより、そよ風や清流などを思い浮かべ、脳が涼しいと感じること。まさに「パブロフの犬」ならぬ「風鈴のひび」ではないか。もっとも風鈴を知らない外国人は涼しいと感じないらしいから「風鈴の日本人」か。

来年はコロナ禍も収まり、風鈴の音を聞きながら穏やかに過ごす夏を迎えたいものです。

# 楽しく伴走しています。

S.I

私は週2回から3回、車で15分程のある方の自宅に行きます。そして一緒に散歩しています。その方は男性で豪(ゴウ)さんと呼んでいます。

豪さんは70代です。40歳代半ばで失明しました。病名は『先天性網膜色素変性症』との診断で現代医学では治すことのできない難病でした。大変なご苦労をされて来た事と思います。一人での散歩が出来ないという事で私が伴走のお手伝いをさせて頂いております。



さて、秋は「秋葉区社会福祉協議会」の取り組みでした。私も80代に入り歩けるうちは、との思いで賛同し始めて1年と3ヶ月経過しました。歩く距離は往復で4キロを1時間です。コースは社会福祉協議会に登録されています。雨天の時は中止で連絡が入ります。伴走中は世間話とかで1時間はアツという感じ。私は普段ラジオ体操くらいしかしていません。健康増進になっていきます。最近では歩く速度が少し早くなったような気がしています。豪さんからは感謝されていますが、むしろ私の方が感謝しなければと言っているのが本音でしょうか、体の動く限り楽しく続けて行きたいと思っています。

# あおば通町内会

●あおば通町内会には「あつたかネットのお茶会」と称して、月に1度十人の方が町内会館に集まっています。高齢者に限らず、どなたでも参加することができます。

今年度はコロナワクチンやコロナ禍の過ごし方などの情報交換も行うことができ、楽しく過ごすことができている。これからは住人の方が安心して住み続けることができるよう努めて行きたいと思っています。

●あおば通町内会には中学生の会があり、「わかば会」といいます。今年度わかば会では「アロマ教室を開催しました。」

講師の先生をお招きし、入浴剤とアロマスプレーを作成しました。参加してくれた子どもたちは、思い思いの香を考えながら楽しく作成することができました。

# 二十年以上続く住宅団地の側溝清掃

1992年頃造成された川口町内の「ひまわり団地」と呼ばれるエリア(JR信越本線東側)では、20数年にわたり、年1回、住民総出による一斉の側溝清掃が行われている。(10/10実施)

開始当時は入居数も半数程度で殆どが他からの転入者で、面識もなく隣組も満足に形成できない状況で、エリア内の不具合や町内会からの申し入れや、要請等への対応についてみんなで話し合う機会が多々ありました。そんな時、空き地からの土砂の流れ込みや、工事による障害物の放置による側溝の排出不良の苦情を多くの方が持つていて、「それならみんなで協力して、一斉に清掃をしよう。」ということになり、当時の町内会役員の協力を得て、始めることになりました。近年では、空き地も数える程度に減り、土砂の流れ込みも大幅に減り、「毎年の清掃は不要では?」の声も上がるようになってきました。が、「年に一度は、顔を合わせる」というのが大事! 「自宅前の清掃は毎年しない」という意見のもとで良き習慣として実施されております。



昨年から、他の隣組からも同時期の住民に相互協力の下で二斉清掃を始めたエリアが出てきて、「さくら団地」(JR信越本線西側)と呼ばれるエリアでは、昨年(団地内北側)、今年(さくら公園周囲)で10/3(日)に行われた。さくら団地では、何ヶ年で全域の側溝を住民参加で実施して、出来れば、恒例化するよう話し合いが行われており、町内会も、他の隣組間でも、交流の推進、環境の整備、美化・衛生のために町内全域に広がっていくように働き掛けを進めています。(川口町内総務・広報部員)

## 富士山登山紀行文 登山日程:2021年7月17(土)~18(日) 序文 (H・Y)

現役をリタイヤ(定年退職)して早5年、幼少年から現在まで常にスポーツに接し活動してきた自分にとって、日本一の富士山に登る事に“夢”を抱いていました。そんな折、仕事上の友人から“富士登山”のお誘いを受ける事となり即座に了承の返事をしました。それが一昨年2019年の晩秋の事でした。年が明け登山計画も整いこれからと言う時に、今年(2020年度)の富士山の「閉山」を知る事となり落胆した事を記憶しています。そして2021年「コロナ」の情勢はなかなか改善されないうまま、富士山の「山開き」の報告を受け「今年こそは富士山登頂を」の“夢”を抱き準備を整えました。山頂の気温が「一桁台」との事なので35ℓの登山用リュックに寒さ対策の防寒用具に気を使った事や、当日の天気急変を予想し、「雨、風」の対策にも気を使いました。一週間前より「週間天気」に注視しつつ、梅雨明け宣言はまだかと気を揉む日々が続きました。いよいよ前日、「新富士駅」前のホテルで宿泊、天候は晴れです。「梅雨明け宣言」が発表となり当日を迎える事となりました。今回は、当初4名の参加で計画でしたが、1名は「コロナ禍」であり不参加との申し出があり、3名での登山となりました。宮城県から1名千葉県から1名それと私です。

総合的に見て、天候は快晴、無風2日間共好天に恵まれ、「御来光」もちょっと雲に掛り気味ではあったが素晴らしい眺望でした。体力的には自信が有りましたが、「過酷」と言う言葉が妥当であった様に思いますが、初めての富士登山としては“大成功”であったと云えます。(追:人出もまばらでテレビなので拝見する「数珠つなぎ」の人波は無く、ストレスの無い最高の登山でした。)



5~6合目  
中間点から  
頂上を望む  
も見えず



7合目  
付近からの  
雲海

「登山記録」は次号(175号)に掲載します。

## 我が青春 (3) [高校時代]

小田原の中継地点では他校の選手数人みられ、本番に向けての神妙な表情が凄かった。駅前で軽く食事をし、帰りの列車に乗り込んだ。そこで奇遇ともいえる高校の校長先生に会う。箱根駅伝試走の帰りだと告げると喜んでくれた。当時、特急の車内にはビュフェがあり馳走となった。先生から高校駅伝県大会では無念だったけれど、高松宮杯(近畿大会)では雪辱を晴らせたねと嬉しい言葉にこの上ない癒しとなった。また、インターハイでの様子にも話題が飛び『君達は強かったね』と、小一時間ほど楽しい時を過ごした。そして何より私を覚えてくれたのが嬉しかった。先生は校長会とかで豊橋で下車、今思えば忘年会だろう。

私は運よく箱根に出場できたが、キャプテンだった同輩は、箱根駅伝を目指して日体大に進学、四年間血の滲む思いをしたが出場できなかった。彼とは淡路島での個人合宿などをし、本校が関西で優勝すると箱根に出場できるかも知れないという、では『箱根で会おう』と約束。それを想えば私は幸せ者である。彼とは殆ど顔を合わすこともなかったが、私は母校の高校には夏の合宿に応援に行くことが話題にあがる。だが、彼は余り帰省していなかったようである。

彼はその悔しさを励みに、母校の教師・監督となり生徒を育成、全国高校駅伝大会で初の二連覇の偉業を成し遂げた。

あおば通 田中 雄二

今年も新型コロナウイルスに振り回されました。そんな中でも東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、日本人選手の活躍がありました。無観客での開催とはいえ、首都圏では新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の中で開催であり、なんと矛盾を感じたのは私だけでしょうか。昨年引き続き今年も「川コミ協」のイベントは殆どが中止となり、「広報おぎかわ」を通じての広報活動も記事集めに四苦八苦でありました。来年こそはコロナ対策を万全にし、様々な活動を通じて、川地域のコミュニティ活動がでけると信じます。

「広報おぎかわ」も今年最後の発行となりました。暮れのご挨拶には早いかなとも思いつつ、今年も一年ありがとうございました。

(S・I記)

## お知らせ・情報・会員募集コーナー

### 生活民芸品 灯火器

車場一丁目 中野

灯火器とは灯芯の毛細管現象を利用し、燃料となる油脂を吸い上げて継続的に燃焼させることで光を得る仕組みです。灯火器には、灯油と灯芯を設置する灯臺、灯臺から油が垂れるのを受ける受け皿や、それらを床面や机面から浮かせるための灯台など、単純なものから複雑な構造をもつものまで多様である。



### 新津二中「歴史講座」

#### 重要文化財 萬代橋とその背景について考える

講師 新津第二中学校校長 入江清次

昨年、受講者の方から、「萬代橋の歴史や背景について知りたい」というリクエストがありました。そこで、今年度1回限りの新津第二中学校歴史講座は、新潟市のシンボルとも言うべき萬代橋にかくされた秘密やその背景をさぐる講座とします。

○日時 令和3年12月8日(水)  
18:00~19:15(受付 17:45~)

○場所 新津第二中学校 会議室

○募集定員 先着20名程度

○参加費 無料 お申込みお待ちしております

※今後のコロナウイルス感染状況によっては中止とさせていただきます。

○申込み・お問い合わせ

地域教育コーディネーター 内山・藤村



### 広報おぎかわ第193号発行についての「お詫びと訂正」について

【お詫びと訂正】

本誌、令和3年9月15日、第193号に掲載しております記事で、下記につきましては字句の誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

記

1. 交番だよりのコーナー(4ページ)死亡交通事故発生状況  
訂正箇所 令和8年8月27日現在  
正しくは 令和3年8月27日現在
2. 生活民芸品「ハエ取り瓶」のコーナー(4ページ)  
訂正箇所 中野一  
正しくは 車場一

以上のように訂正し、ここに謹んでお詫び申し上げます。

総務・広報部

### 親子門松作り教室中止のお知らせ



12月26日(日)開催予定の「親子門松作り教室」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、誠に残念ではありますが、中止となりました。(文化教養部)

### 編集後記

#### 「広報 おぎかわ」 話題・情報提供のお願い

総務・広報部では読みやすく、より皆様に親しまれる広報作りを心掛けています。

町内会行事など身近な話題、耳寄りな情報やイラスト、写真など気軽に下記へお寄せください。

◆提供先 コミ協事務局(総務・広報部)  
TEL 24-5776